

熱海市オンライン学習支援

1. 「オンライン学習支援」実施の経緯

令和3年7月、静岡県熱海市では盛土が崩れ甚大な被害が発生した。当時は複数の地域で新型コロナウイルスの流行が確認されており、いわゆる「まん防」が発令されていたほか、後に緊急事態宣言が広島県や静岡県を含む地域に発令された。



図1 土砂災害の様子

他方で、7月という時期は、夏休みにはいる時期にあたり学校が夏季休暇を迎えていた。さらに受験生にとっては、天王山にあたるなど学習支援のニーズが一定確認された。しかし、先述の通り、コロナ禍において人の移動の制限が強くなされており大学生をはじめとするスタッフを現地に派遣することは困難な状況であった。そこで今回は現地団体と協働することによって、現地では学習の場をつくり、同時にわからないところがあったときに質問ができる相手をオンライン上で用意することとした。

2. 「オンライン学習支援」の概要

日時：2021年8月5日～現在に至る

場所：オンライン

ボランティア参加者：本学からは子ども学科の伊藤が参加した。また必要に応じて有志の学生も参加した。なおオンライン学習支援は伊藤が理事を務めるNPO法人ROJEの協力を得て運営を行っている。また、現地ではNPO法人しずおか共育ネットが学習の場を設定し、全体のコーディネート認定NPO法人カタリバが担当するという産学連携の試みであった。

3. 「オンライン学習支援」の様子

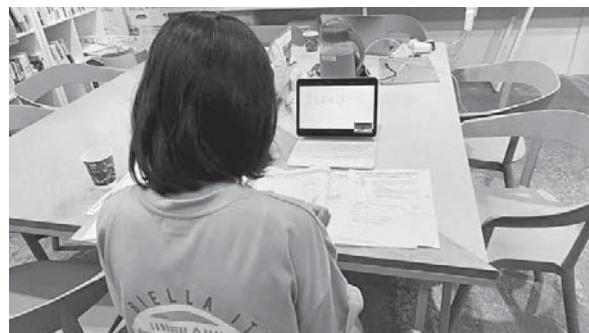


図2 オンライン学習支援の様子

オンライン学習支援の様子は上記の図2の通りである。多いときには10名程度の中学生在が現地のスペースで学習を行った。また一日4時間のボランティアを夏休み中は毎日、夏休み後は土日のみに限って配置することができ、それぞれがわからないところを聞きながら学習することができたと考えている。

4. 「オンライン学習支援」の成果

新型コロナウイルスの流行から人びとの移動には大きな制限が続いている。もちろん感染症対策は不可欠であるし、引き続き不要不急の移動は避けていくべきであろう。しかしながら、災害はコロナ禍の終わりを待ってはくれない。また今回は現地団体と幸運にも協働することができたが、実際には現地団体も被災をするというケースは十分に考えられ、その際に復旧・復興をすべて現地で担うということは非常に困難になることが想定される。

さすれば我々が検討すべきは移動を最小限にした上で効果を最大限に得られる支援方策の検討であろう。コロナは我々の支援のあり方を問い直す大きな契機となっているのである。最後になるが、熱海市の皆さんの日常が1日も早く取り戻せることを心より祈念いたします。

(文責：学芸学部子ども学科 伊藤 駿)